

富津市立保育所自己評価書

(飯野保育所)

- A → 大変よい
- B → よい
- C → 一部検討を要す
- D → 改善を要す

評価期間 令和4年4月～令和5年2月

令和5年3月

項目	内 容	評価 A.B.C.D	評価の根拠・改善策等
生命の保持・健康	<p>家庭との連携を密にし、嘱託医との連携を図りながら、子どもの疾病や事故防止に関する認識を深め、保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努める。</p>	A	<p>家庭との連携を密にし、一人ひとりの健康状態は担任だけでなく全職員が把握し対応できるように持病一覧を作成し共有している。また、感染症対策等、十分に配慮し安全な環境作りに取り組んでいる。嘱託医について、子どもの健康や発達に関して指導を受け、情報交換をすることができた。事故防止マニュアルに沿って点検や不審者対応訓練に取り組み、事故防止に努めている。</p>
	<p>愛情豊かな受容の下で、安定感を持って生活し、食事や午睡、遊びと休息など、快適な生活のリズムが形成される。</p>	A	<p>保育士と子どもとのつながりを大切にし、守られているという安心感の中で、保育士に甘えたり、助けを求めたりしながら愛着の土台を築いていった。自我を育てることを大切にしながら、自分でやりたいと思う意欲や自分にはできると思う自信につなげている。また、一人ひとりの家庭での様子を聞きながら、その子に合った生活リズムに配慮したかわりができた。</p>
	<p>様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。</p>	A	<p>子ども自ら、興味関心を持ち、手を伸ばして関わるといふ探索行動を重ねてきたことで、自分らしい表現をすることの土台を作った。そこから、一人ひとりが主体性を発揮しながら、様々な遊びをのびのびと展開していくことができた。</p>
人間関係	<p>保育士等に思いや行動を受け止めてもらい、応答的な関わりの中で、安定感をもって過ごす。</p>	A	<p>一人ひとりの行動への応援や共感だけでなく、目に見えない内面に目を向けることを大切にしている。本音の気持ちを見極めながら、寄り添っていくことで分かってもらえる安心感に包まれる体験が情緒の安定を図ることにつながった。</p>

	生活や遊びの中で、身近な人への関心をもち、真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。	A	生活や遊び、行事を通して、異年齢児とのかかわりが深まり、優しくしてもらった経験により、今度は優しくしてあげたい思いが育っていった。人とのつながりが深まることは、子どもたちの中で、仲間への信頼、人を思いやる気持ち、自己肯定感を高めることにつながり、生き生きと生活することにつながった。
	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。	A	自分の存在を認めてもらった経験をもとに、自己主張ができるようになると、トラブルも増えるが、成長するチャンスととらえ、保育士はその子に合った支援を行い、自立心や共同性を育てることにつなげている。
	生活や遊びの中で決まりの大切さに気付き、守ろうとする。	A	保育士が一方向的に押し付けるルールではなく、生活や遊びの中で必要なルールを自分たちで考えていくことで、守ろうとする気持ちを高め、教えあったり、助け合ったりする関係を育んでいる。
環境	安全で活動しやすい環境の下で探索活動を通して五感の働きを豊かにする。	A	戸外遊びでは全体を見渡す見守り保育士を立てることで安全面への配慮をした。 砂や水や泥に存分に触れる体験を大切にし、自然の中で五感を使って、好奇心を高めながら自分の力を試す遊びが広がった。
	生活や遊びの経験を重ねながら、形、色、大きさ、量、音などの物の性質に気付いていく。	A	遊びを通して、つなげたり、重ねたり、薄めたり、削ったりすることで、色や形、量等に気付き、興味を深めていった。遊びの中で興味を持ったことは、すぐに図鑑等を活用しながら自分たちで調べ、物の性質や特徴を知り、思考力を高めていった。
	自然に触れて遊ぶ中で、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。	A	散歩や戸外遊びに出る中で、太陽の恵みや風の力を感じたり、動植物に触れたりしながら、美しさや不思議さ、面白さ、怖さを友だちや保育士に伝えながら探求心や感性を高めている。

	日常生活の中で、数量や図形、標識や文字などに関心をもつ。	A	郵便屋さんごっこなど、遊びのブームを巻き起こす中で、必要な数量や文字に興味を示し、知りたい気持ちを高めながら学ぶことができた。小さい子はごっこ遊びなどを通して、図形に興味、関心を持つことができた。また、食事をしながら、「いっぱい」「少し」など、自分の思いを伝えながら量の概念を自然と覚えていった。
言葉	保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自分の要求や気持ちを伝えようとする。	A	泣いて表現することや言葉にならない気持ちも保育士が大事に受け止めていくことで、心を通い合わせ、安心することができた。そのことを土台に次第に言葉での表現が豊かになってきている。表現の仕方には個人差があるので、その子に合った配慮も丁寧に行った。
	絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりして言葉の感覚を豊かにする。	A	絵本や紙芝居に十分に触れる時間を大切にした。全体に読み聞かせるだけでなく、一対一で触れ合いながらの読み聞かせも大切にすることで保育士との温かい時間を共有しながら、絵本の世界を楽しむことができた。お話の中の言葉を自然に発したり、主人公になりきったりして、ごっこ遊びに発展させることもできた。
	保育士等や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。	A	保育士が子どもの話を丁寧に聞いたり、受け止めたりしながら、今度は相手の話にも耳を傾けられるようになり、言葉で通じ合う喜びを感じている。人の話に興味や関心をもって、よく聞くことができるようになった。
	生活の中で必要な言葉の意味や使い方を知る。	A	生活や遊びの中でのやり取りをする際、「やりたかったね」「痛かったね」など気持ちと言葉がつながるように、保育士が代弁をするようにしたことで、子どもたちから、自分の気持ちに沿った言葉が多く聞かれるようになった。また、遊びや生活の中で必要な言葉を自分で考えて、人に伝えることができるようになっていく。

表現	水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れ五感を使い楽しむ。	A	1年を通して、様々な素材に触れながら、五感を使い楽しむことができる環境を保証している。特に水・砂・泥を使った遊びをダイナミックに展開することができた。
	音楽に合わせて体を動かすことの楽しさを味わう。	A	わらべうた、体操、遊戯など音や曲に合わせて、一人ひとりが自ら動いたり表現したりすることを楽しむことができた。また、曲を聞いて自ら振り付けを考えて楽しく踊る姿も見られた。 リズムについては感染対策をしながら取り組み、公開リズムも6回にわたって実施したことで、親に見てもらい喜びや大きい子の取り組みを見てあこがれ、難しいことへの挑戦意欲が高まり、達成感を味わう事ができた。
	生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。	A	豊かな自然の中で、5感を使って「なぜ」「どうして」と探求心が高まり、大人も子どもと一緒に考えたり、共感したりしながら、楽しむことができた。 楽器を使って演奏の仕方を覚えるだけでなく、友だちと音を合わせることの心地よさやダイナミックさを感じる事ができた。
	生活の中で、保育士等や友達と感動を共有することや伝え合う楽しさを味わう。	A	子どもたち自ら、人と共有したいという思いが育ち、人に伝えたり話したりする中で、喜びを感じる事ができた。 特に運動会では異年齢児と協力し、感動を共有する事ができた。 また、友だちができたことを共に喜び感動する場面もあり、仲間関係が深まった。
保護者への支援	一人ひとりの保護者と、日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	A	一人ひとりの保護者と、送迎時や連絡ノート、ドキュメンテーション、個別面談等で情報交換を密に行ったことで、信頼関係を深めることができた。また、子育て

		の悩みに共感し、一緒に考えながら親子の歩みを応援し、子育ての自信につながるように努めた。
	家庭状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	A 健康面や家庭の状況等、子どもの成長にとって必要な内容が記載されている。
	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、迅速に対応している。	A 保護者対応は笑顔で、積極的に子どもの様子を伝えながら、話しやすい雰囲気を心がけている。 相談や意見に対しては、相手の立場に立って共感的に聞き対応している。 保護者の今の悩みを聞きながら、子育てに役立つ子育て講座を実施することができた。
行事	行事のねらいを計画や実施に十分生かしている。	A 子どもの今の興味や関心を把握し、子どものやりたいことが実現するために計画を立て、実行することで、達成感を味わわせることができた。 そのことで遊びが発展し、ブームを巻き起こせるようになった。
	保護者の願いや意見を取り入れている。	B 保護者に、子どもの育ちに大事なことや悩んでいることについて、お便り等で伝えながら、共通理解のもと保育を進めていった。 行事についてはコロナ感染対策から、保護者の参加人数制限をすることはあったが、今年度は公開リズムも6回にわたって実施し、保護者の希望にできるだけ添えるように努力した。来年度が保育参加も実施していく予定である。
	計画・実施・評価・改善の体制をとっている	A 子どもが興味を持って取り組んでいることを計画に取り入れ、保育士はその遊びや活動が発展し、達成感が味わえるように導いている。遊びや活動ごとに振り返りをし、反省点の改善やより良いものになるための改革を行っている。

その他	乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っている。	C	SDカードの紛失事故があり、反省のもと、個人情報の取り扱いのルールの厳守、適切な管理を徹底している。十分に注意することを職員間で共有した。
	園内研修を実施している。	A	外部講師を園内に招き、「本物の主体性とは」「自分の気持ちをコントロールするために」「発達の気になる子の個別支援」等、を実施した。また、園内研修では「心の運転手」「子どもの主体性が発揮された園行事」「不審者対応について」等、充実した内容を学び、実践に生かすことができた。
	掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用している。	A	子どもたちが今日どんな感動をしたかなど、その時その時の子どもの様子を逃さず、掲示(ドキュメンテーション)や連絡ノート、お便り等で伝えることができた。注意事項やお願いの掲示については保護者の方が分かりやすいように掲示の仕方を工夫したり、声掛けしたりすることで、見てもらえるようになった。